婦人新報

第三百三十四號

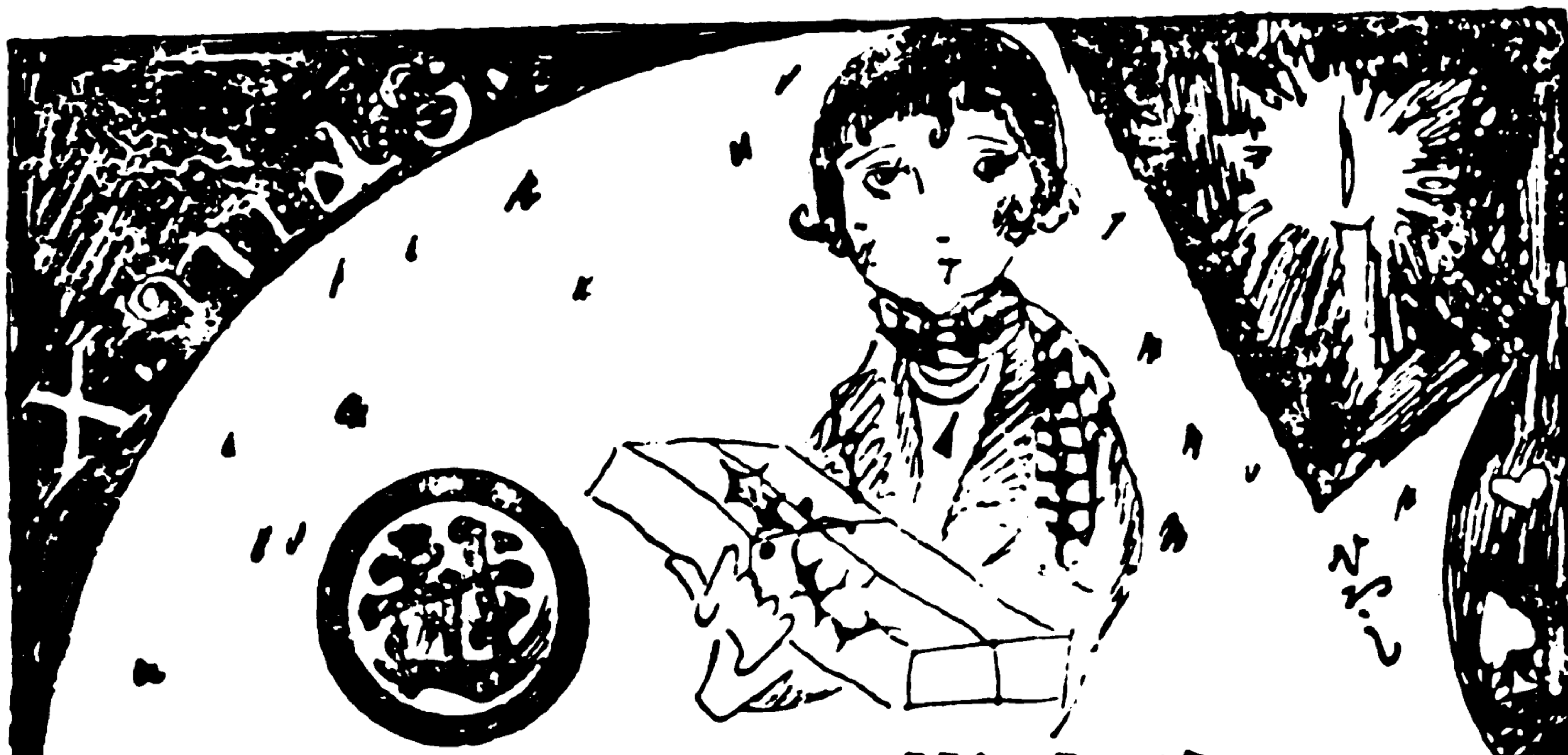
我らの目標

世界の

平和・純潔・禁酒

十二月號

基督教婦人矯風會



◆御歳暮大賣出し◇

……御贈答用には三越の品……

御歳暮の御贈答には、何方様にも喜ばれる三越の品を御用ひ遊ばすに限ります。三越では、御選擇の御便宜の爲め『歳暮御贈答用品賣出し』を開催致し、御恰好品を澤山に取り揃へ、御高覽に供します何卒御用命のほど御願ひ申し上げます。

三越の商品券……贈るに御便利 受けて御重寶

十二月の三越

◆格安見切反物賣出し……（一日より十五日まで）
◆三越大晦の市……（一日より廿八日まで）
◆新製羽子板陳列……（一日より廿八日まで）
◆東西大家新作畫展覽會……（八日より十二日まで）
◆河合卯之助氏新作陶器展覽會……（八日より十二日まで）
◆日本漆器協會第三回展覽會……（十六日より十八日まで）
◆日本旅行文化協會主催ウヰンター●スポーツ展覽會……（十八日より十九日まで）
◆新年用品陳列……（廿八日より）

東京市 **三越呉服店** 駿河町

TRADE MARK

日曜學校大會記念石鹼

一　お化粧用　一函（三個入）　六拾錢

化學上の純石鹼で、全く交ぜ物がございません。弊所創業以來四拾有餘年の古き經驗と、最新の學理に基いて造られた、最良の石鹼であります。

一　お洗濯用　一個　貳拾錢

お洗濯が思ふやうに出來ます。勿論布もいためず、手もあれず、絹物でも、木綿物でも、其の他何でも、きれいに洗ひあげる事が出來ます。

一　この石鹼の販賣について

この石鹼は全國の各基督教會又は婦人會にて、販賣せられて居ります。賣上代金の内純利益金は、全部各教會の費用に、又は基督教の諸事業費に、獻金致して居ります。ですから假に貴方が一個御買上下さいますとすれば、其の純利益金は貴方が、基督教のために獻金されたことになるのでございます。どうか御愛用下さい。

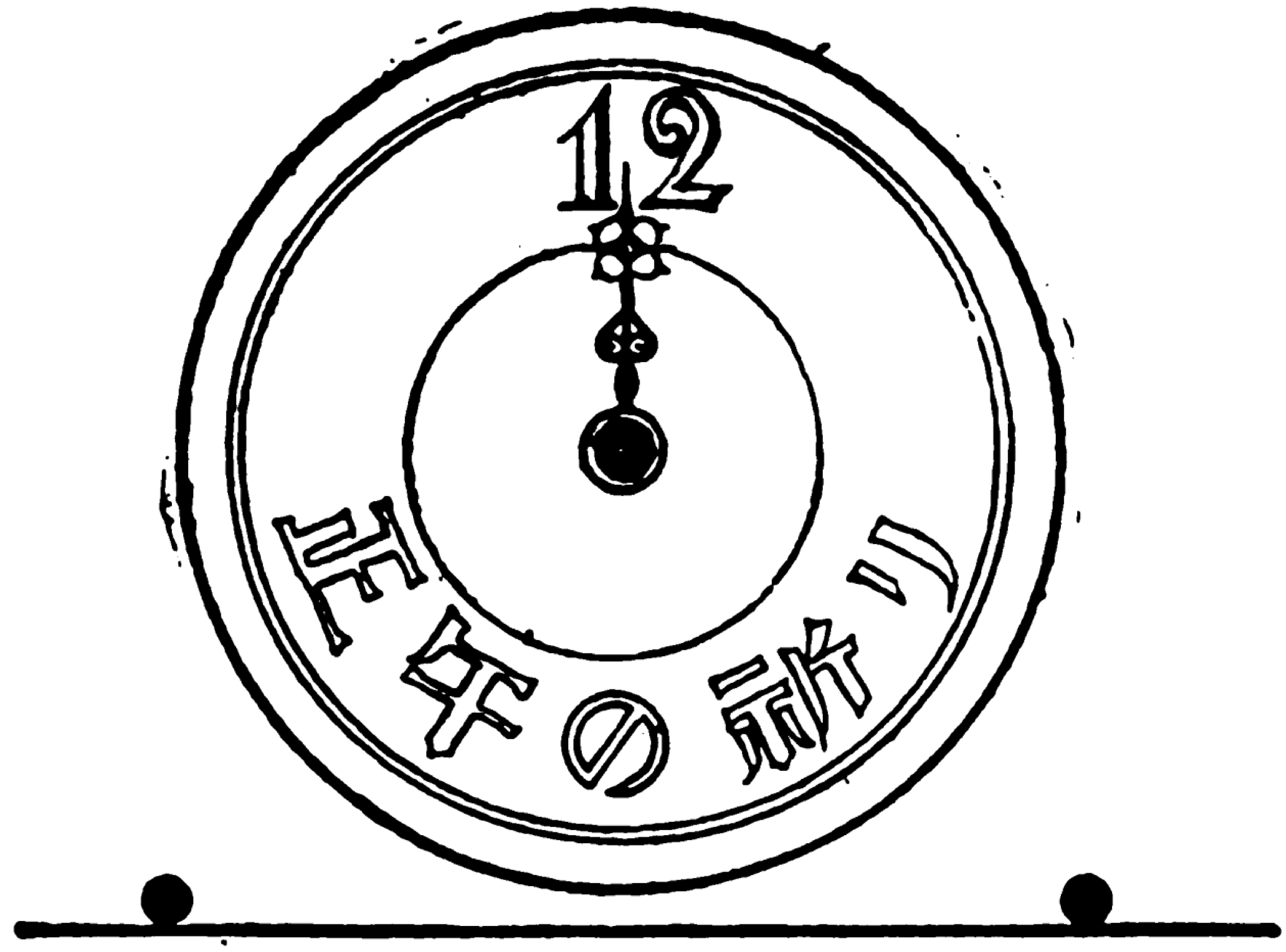
製造元　播磨石鹼製造所　神戸

第三百三十四號目次

FUJIN SHIMPO

No. 334. December 1925.

CONTENTS



エホバをほめたゝへよ、もろ〳〵の天より
エホバをほめたゝへよ、もろ〳〵の高所にて
エホバをほめたゝへよ、その天使よみな
エホバをほめたゝへよ、その萬軍よみな
エホバをほめたゝへよ、日よ月よエホバをはめたゝへよ、ひか
りの星よみなエホバをほめたゝへよ、もろ〳〵の天のてんよ天
のうへなる水よエホバをほめたゝへよ、これらはみなエホバの
聖名をほめたゝふべし、そはエホバ命じたまひたればかれらは
造られたり、エホバはまた此等をいやとほながに立てたまひた
り又すぎうすまじき詔命をくだしたまへり、龍よ、すべての淵
よ、地よりエホバをほめたゝへよ、火よ、雹よ、雪よ、霧よ、
みことばにしたがふ狂嵐よ、もろ〳〵の山、もろ〳〵のをか、
實をむすぶ樹、すべての香柏よ、獸、もろ〳〵の性畜、はふも
の翼ある鳥よ、地の王たち、もろ〳〵のたみ、地の諸侯よ、地
のもろ〳〵の審士よ、少きをのこ、若きをみな、老たる人、を
さなきものよ、みな
エホバの聖名をほめたゝふべし、その聖名はたかくして類なく
そのえいくわうは地よりも天よりもうへにあればなり、エホバ
はその民のために一つの角をあげたまへり、こはそのもろ〳〵
の聖徒のほまれエホバにちかき民なるイスラエルの子輩のほま
れなり、エホバを讃稱へよ。

——詩篇第百四十八篇

クリスマス

久布白落實

又廻り來るクリスマス

明け暮れ愴惶として雜事に追はれ、夏過ぎて秋來るさへ殆んど無心に過ぎやうとするこの頃、原宿の通りを行きかゝる途端に四五人の小娘に出會ひました、ゆき過ぎに話す言葉をきけば、「アラもう卅九日で、お正月よ！」と如何にも大發見でもしたやうな、嬉しい表情です、暫らく忘れて居た、小娘時代がフト顏を出して物言ふやうな、不思議な氣持ちに打たれて思はず微笑まれました、成程さうです、もうお正月までには一と月と少し、クリスマスもこゝ二三度日曜をする內に迫つて居ます、轉々するのは人事計りではありませぬ、期節も、天地も默々として間斷なき前進をつゞけて居ます「願くば我に日を數ふる事を敎へて、智慧の心を與へ給へ」と祈つた詩人の言葉も今更に思ひ起されます。

草木も冬の備に

梅や蘭から始まつて、櫻、桃、つゝじ、ダリヤ、薔薇と次次に其美と香を競ふてゐた花も菊の大輪、白菊、黃菊とさきほこりし姿に、今年の名殘とゞめ、野山を染むる紅葉は、擧つて初冬の樂を奏しつゝ青葉の勢力を母樹に返し來り、霜よ來れ、木枯よ吹け、天地は已に冬籠りの用意はなりぬと云はぬ計りの手廻しです、蟲も、鳥も、それ〴〵に、或は地下に、或ひは巢に、或は南國に飛び去つて、時の往來を心得顏に、各々其の準備を怠りませぬ、自然界にも人界にも、冬はやがて春を生む力、寒さ、淋しさ、苦しさは、やがては、生命の芽生ともなる可きを物語るやに思はれます。

過ぎ來りしクリスマスの數々

幼い時のクリスマス、唯雲の如く、夢の如く樂しかつた記憶、學校時代のクリスマス、音樂や、英語や、華やかな色、家持ち時代のクリスマス、家庭の隅々まで、老幼男女の喜ぶ聲、樂しむ心地、有ゆるクリスマスが眼前にゆきゝします、

その内に、年一年と、深くなりゆくは、クリスマスの眞意です、云はゞ十字架を目指す、クリスマスの姿です、樂しみに先づ苦勞です、權利に先つ義務の存在です、如何なる花か、根なくして咲き得やう、如何なる樂しみか、苦しみなくして生れ出やう、如何なる權利か、義務なくして摑み得やう、クリスマスは人生に於て、この眞理を最も力強く物語るものではなからうか。

家庭に於て

この頃結婚の破綻をきくことが多い、米國の如き七と一の割合で離婚が行はるゝと云ふ、我國でも、昨今これを耳にする事が多い、破綻の源は何であらう、生活の壓迫も一つであらう、不準備な結婚も一つであらう、金錢や、政策の結婚は破れるのも當然である、然し純粹な、所謂自由結婚でも、其數から免れ得ない、これは何を物語るのであらうか、家庭は決して樂しみの場所ではない、こゝは男女の訓練の場所、ここは夫婦、親子互ひに犧牲を以つて立つ處です、相愛し、相信ずる男女の造りし家庭でも、そこには、疾病、不幸、有ゆるものはおそひ來ります、相互ひの性格の相違も、切瑳琢磨の必要が有ります、姙娠、分娩、保育に到つては有ゆる苦勞と、犧牲は容赦なく要求せられます、この間に處して、加ふるに失職の不安、經濟の困難が寄せて來ます、若し唯快樂を結婚と誤り、家庭を樂園とのみ心得て居るなれば、到底其試練には耐られませぬ、家庭生活の完全を期するにはやはり生命がけの苦勞、忍耐を辭せざる覺悟がなければこれを全うする事は困難です、家庭の樂園、スヰートホームは、やはり十字架より生れ出づる事が事實では有りますまいか。

社會に於て

社會は惡化すと人は申ます、然し決して退歩して居らぬ事は事實です、最近百年のことを考へても、奴隷賣買は廢されました、萬國赤十字は組織されました、刑務所は年々改良されます、阿片は國際的に注意せられます、禁酒すらも國家的から、國際的に進まんとしつゝあります、敎育は普及され、人權は日々に驚く可き速力を以つて認められつゝあります、日々罪惡と墮落の世界のみを見るやうですが、翻つて百年前を顧みれば人類界の進歩は實に驚く可きものが有ります、而して此等の改善、進歩の背後には、いづれも五十年、百年に渡つて、間斷なき努力と犧牲が拂はれて居ます、唯一つの改善でも、其後に血と涙のにじまぬものは無いと申して差支へあ

りませぬ。

社會改善は夢でない

家庭建設に廿年、卅年或ひは半世紀の努力と犧牲を捧げて多くの健全なる家庭は建設されました、破れた家庭、不幸な家庭は數多くありますが、然し、世界の大多數の家庭は、夫婦の愛に結ばれ、親子の愛につながれて、不完全ながら神のホームの形を備へ、人の子を育てゝゆきます、社會改善もやはり夢では有りませぬ、百年に近き言論や、思想は、終ひには血を流す爭を經て黑奴の賣買は撤廢せられました、又百年に近き教育や、輿論の教育、宣傳で、終ひに國家的排酒が斷行され、我等の隣國米國は已に六年に渡つて着々其實績を擧げて居ます、チョセフィンバッラー女史立ちてより今日まで早や五十年、英國は白奴廢止の運動に着手して、先づ第一に本國にて公娼制度を撤廢し、ついで之を殖民地に及ぼし、更に歐洲諸國を率ひて、萬國白奴廢止同盟を設立し、いよ〳〵今年は、佛國が、國際聯盟に於て、彼の有名なる「メーソンチブブリーク」なる散娼の家々を向ふ五年の内に全廢する事を明言するに到り、彼のスキスのゼネバ市は、僅か殘留せる公娼の家を、本年十一月卅日限り撤廢する事を宣言するに到りました。

バッラー女史等の叫びし聲は、終ひに今や全世界の聲となつて、我國に於てすら最早や其實を擧げねばならぬまで迫り來るに到りました。

事業に於て

如何なる事業も苦しみなしには出來上りませぬ、喜んで苦しむ人、樂しんで苦しむ人を多く有する事業は發展する、これは苟も事業を有する程の人の實驗する事と思ひます、華やかな場面も有り、むさ苦しい裏面もあるのが、事業の本來です、そのいづれにも、恐れず騷がず、倦まず撓まず、日々つとめ行く處に、力は養はれます、進んで下積みとなる事を恐れぬ人は、いつしか隅の巨石となつて、磐石の地位を占むるに到ります、遠くを求めずとも、日常の生活で、少し活眼を開いて周圍を視れば、實例はいくつも轉んでゐませう。

キリスト精神はこの眞理を

語つて居るものではないでせうか。ワシントンでもリンカーンでも扨ては西鄕でも、勝安房でも、思ひ切つて身を邦家に投出したものは、望んで得られぬ名聲もかち得て得ます、

キリストの如き、誰一人理解する友もなく、其犧牲を受くる國家すらなき時、見えざる萬民の爲めに捧げられし犧牲が、今も二千年の後までも、人を救ひ、世を革にし、進み進んで終ひに、世界の救ひとならうとして居るのは、何たる偉觀と云ふ可きでせう。

愛と苦しみ

愛とは苦しみの別名ではないでせうか、生みの苦しみ、育ての苦しみ、死別の苦しみ、若し愛するものでなくば、其何れにも苦しみを感じませぬ、愛すればこそ、事業の爲めに苦しみます、愛すればこそ、友の爲めに苦しみます、愛なくば事業の盛衰が何？　友の善惡が何？　路人の如く過ぎ行くのみです、愛は苦しみの製造場ですが、然し愛なくば人生は沙漠でせう、荒涼たる萬里の原野は、唯天、唯砂、人の住家とはなりませぬ、愛は人の生命、天地の心、愛なき者は人心が解りませぬ、況んや神の心をや、たとひ、如何に心配が増さうと、責任がふえやうと、苦勞が嵩まうとやはり、人は愛せずには生きて行かれぬのが事實ではないでせうか。

力を盡して人を愛し力を盡して神を愛せよ

若き紳士の問ひに對へて、キリストは申されました、律法の最大なるものは、力を盡して神を愛する事だ、と、又重ねて第二も亦これに同じ、力を盡して人を愛する事だと。これは實に千古の名言でせう、これは言ひ換へれば力を盡して神の爲めに苦しめ又力を盡して人の爲めに苦しめ、卽ちイエス自らせられた如く神を愛し、人を愛し、十字架を執つて辭せない事でせう、恐れ氣もなく、弟子等を出し拔いてまで「先立ち行けり」と云ふやうな勢で、エルサレムに向つて最後の歩みをむけられたイエスの心中には、この邊の消息が、明かに見えたのではないでせうか。

　クリスマスが來る！　又廻つて來る！　嬉しい！　樂しい！と云ふ時に、更に奧深い處に、人生は樂しい、苦しみは愛だ努力は光明だ、犧牲は生命だ、と云ふ聲が何處ともなくひゞく、同時に又進んで義務を取れ、努力を取れ、苦勞をとれ、犧牲を辭するな、人生の妙味はこゝだ、神の國はこゝに在ると永遠の星はさゝやき顔に輝く、皆樣、クリスマス御目出度う。

千九百廿五年十一月廿三日稿

婦人參政權運動を顧みて

N・O・K・

一

普選の聲に呼び醒され、東都の有ゆる婦人參政權に興味と責任を感ずる人々を、大隈會館に會し、菊花の薫る中に、大會を催したのは、大正十三年十一月十三日の午後でした。人人は時の力に押し出されて、最早や默止する時でないと、廿有余の委員等が、其後連日或ひは隔日に集合を催して、終ひに婦人參政權獲得期成同盟會の名の下に、發會式を擧けたのは、越えて一ケ月、同年十二月十三日の事でした。

時の力は恐ろしい物です、當時、集つた人々は、宗教に於ても、思想に於ても、はた又、職業に於ても可なり異つた人人の集合でした、然し幸ひにも唯一つの參政權獲得の目的の下に、各自は、其時と、力と、金と、有ゆるものをかき集めて捧げました、私は敢てかき集めてと申ます、何となれば、私始め、時も、力も、我が職に捧げたあとの時と力です、又金は凡べてが無一物の中からかき集めたものでした。

一月、二月、三月と政治期の最中、嚴寒と戰ひつゝ一同は夜な〳〵、琴平町の事務所に働をつゞけました、對議會運動部、宣傳部、財務部、たゞこの三つは、車輪の如く廻りました、終ひに、三月十日の大運動となり、三種の請願となり、講演會となり、野外運動となり、二つの建議案は、いづれも通過、一つの法律案は、衆議院通過と云ふ、異狀な成功を以つて、終を告けました。

二

三月末の議會は、終ひに、十數年來懸案の普通選擧法を完成して、三百萬から進んで一躍千二百萬の男子に權利を與へて終りを告げました、私はそれより豫定の如く、金澤に於ける婦選會大會に出席、歸り來つて、直ぐ婦選の總會と云ふ事になりました。

これは始めから寄合世帶です、運動の都度一致するのが得策でないかとは、始めから私の持論でした、然し大勢は、永久的團體を要求して止みませぬ、終ひに、期成同盟會は、四月の總會に於て、一つの永久的團體として、生れ出づるに到りました。

三

四月以後の團體は、中央委員を十五名とし、其内より三名を理事となし、部は前の三部を六部とし、それぞれ部署を定めて動き始めました、然し、張つめた弓は、時には弛めねばなりませぬ、病人も出來ました、留守の人も出來ました、中央委員中には、二三連續缺席者も出來ました、第一期の目覺しき運動に比して、第二期は、誠に遲々たるものでした、「すの拔けたぬた」のやうだと憤慨する人も出來ました、然し、中央委員會は、必らず月二回時には三回催しました、部員は出來得る限り活動しました、政治期ならぬ今期には、教育が第一とて、五月には早や、政治教育の講義が開かれました、まづ第一に普選の話よりと申して、田川、林田氏等の講師を聘して普選についての講話をきゝました、會員委員會は、力を盡して會員募集につとめました。

四

八月一ヶ月を休み、事務所を少しく經濟的な、愛宕町に移し、九月以後は、いよいよ政治教育に全力をそゝぎました。政治法律に對して、何等基礎知識なき、我々婦人が、先づ第一に得て知る可き、市政、町村政、縣政、國政の大本に對して、一括した教育材料を得たいと苦心の末、終ひに一つの目次を作製し、之を基礎として、更に田川講師について、十六回連續講演を願ふ事となりました、若しこの講演が、一つのものにまとめらるゝなれば、或ひは今後、我國のこの方面に餓えて求めらるゝ方々に一の道しるべとなる事も有りはせぬかと心に念じて居る次第です。

五

對議會の運動も、亦間もなく開かれねばなりませぬ、創立の華々しさは失はれても、運動の堅實さは更に強められねばなりませぬ、資金も調達せられねばなりませぬ、會員も增加せねばなりませぬ、有ゆる障碍は途をふさぎ勝ちです、然し當然我が日本婦人が、進み行く可き道に障碍が何であらう、困難が何であらう、要は、唯堅固なる前進運動あるのみです冀くは今年は、更に昨年に倍して、この運動に於ても實績を擧げ度いものと思ひます。

このごろ

守屋東

かねて一度は傍聽して盛な其集會の有樣を見たいものと思つて居た關西の聯合婦人會に、東京の聯合婦人會を代表して田中芳子夫人と出席した。東京の會の成立と全く趣を異にして居る大阪の此會合は私にとつては何もかも興味深いのであつた。

第一見て何もかも大阪朝日新聞社が主催され、お膳たてを作られ、そしておはしをとればよいやうに準備されてある會合であつた。あまり何もかも準備されてあるのでいつも準備の苦勞に馴れて居る私には反つて少しものたりなさをさへ感じた、然し名古屋以西の各地から四百に餘る代員が參列され議席に着いて居られる處は勇ましいものであつた、私は田中夫人と共に番外として參觀した、各地方の矯風會支部からも多數の代表者が出席して居られる、矯風會が取り扱ふ議題と等しいものがまた多數議題として提出されて居る、例へば廢娼問題、婦人參政權、廢酒問題などゝいふものであつた、其議題に對し提出者が說明されると各地の代表者と共に我婦人矯風會の各地支部の姉妹は熱心に贊成演說やら、拍手やらを以て應援されて居る、心强い感じが私の心に湧き起つて來る。

廿五歲まで酒、タバコを飲用させぬやうといふ、所謂廿五歲案に對して神戸の小杉イネ子夫人が說明された後、私もだまつて居りきらず一言贊成演說と共に自分が廿五歲案を提出せんとして居る理由について述べた、然も此案が、此聯合婦人會の特別なる請願の一つとなつて決議された時は眞からうれしく思ふた、日本を酒から救ふものは、禁酒敎育と相俟つて制定さるゝ法律である、其一つとしての廿五歲案なのである。

東京聯合婦人會から提出した議題は、南洋島民及在住する

内地人に慰問として活動寫眞のフィルムを送りたき事、此件は賛成を得、大阪朝日新聞社は五巻だけ活動寫眞のフィルムを貸與して下さつた、また南洋トラックに於て發行されやうとして居る山口氏著百科字書の印刷に對する後援も有志の間に非常な同情と後援を得て、日本として初めてする委任統治の南洋に對し婦人の間に相當の理解と同情とがあつて政府の仕事に對し、温い人情味が加へられてゆく事が出來たら決して小さい事ではないのである、民をおさむる苦痛は昔の人達がした事であらうが、今は隣人の爲にする苦勞としてお互は働く可き務を持つて居るのである、日本の婦人が小さいながら對外の問題に興味を持つやうになつて來ておる事はうれしい事である。

□

一度はどうしても筆か此事をかくすにはおれぬ問題は、全日本の禁酒禁煙教育運動の事である、全國各支部の諸會員が熱心に働いて下さる爲に、すでに五十錢を投じて一枚を引きうけるといふて下された學校が七千校に達した事である、(初めての方の爲に附記すれば、卽向ふ十年間年々全國の二萬五千有餘の小學校に禁酒禁煙教育に關する書類ポスターを送つて、小學校教育に於て充分禁酒禁煙の教育をして頂くといふ運動、その爲に一人が五十錢出せば一枚を引きうける事が出來るのである、故に五十錢運動といふ)二萬五千校の中七千校は引きうけて下さる方が定まつたが、猶一萬八千校以上ある、どうしても此一萬八千校を引きうけて下さる方を作らなければならない、七千萬の日本人の中から二萬五千は決してむりな事でない、本部の仕事でもなければ、少年禁酒軍の事實でもない、この運動は日本人總掛りの運動なのである、只矯風會員は其爲に苦勞して働き、人々に語つて五十錢を出して頂き、我國の排酒事業の爲に十字架を負ふ務を以て居るのであり、そして我國が排酒國となり、愛する子女が家庭に於て注意深く守らるゝやうに社會に於ても、酒や煙草から受ける害のないやうになる、其日を樂しんで働く光榮ある同勞者なのである、七千萬人の日本人の中から選ばれ、用ひらるゝ選民なのである、四國高松の支部會員が特に此運動に自覺され各方面の人々に戸別訪問をしてすでに百に近い人々から五十錢づゝを集められた事は、大きな苦勞をされた事と思ふ、私

共會員は只僅かの會費を出して白リボンをつけてそれで會員といふては申譯ないのである、どうしても白リボンをつけた爲苦勞をし、子女の爲に涙をながして働かなければならぬのである、私も會員の一人である、泣く、涙ながす、十字架を負ふ、感謝して此決心をなし、祈を以て働くのである、全國七千人の會員諸姉、愛する日本の將來の爲に苦勞しませう。

□

つまらない迷信の爲に此世の人がどの位悲慘な運命を我れ自らまた周圍から作り上げてゆく事かしれない、今二十の娘は皆丙午年である、お嫁にゆけない年まはり、といつて、いみきらはれて育てられて來た、女學校の或る組などは皆此丙午である、兩親初め親戚は、丙午に生れた女を生まれる前からのろうて來た、生れた後は、其子の性質をきはめるより先丙午の女として萬事を見た、從つて少し元氣に遊んでさへ丙午だからどうも暴いといふやうな見方で育つて居る、學問が出來るといへばやつぱり丙午はかちきだと、全く丙午の女はど氣の毒な迷惑な立場におかれたものはない、それが嫁への年頃になつて情緒が高鳴りする頃に達しては氣の弱い娘は入水したり家出したりする悲慘事が新聞で報導されて居る、よしかりに氣にかけぬ迷信にとらはれぬ家の娘でも「丙午だつて平氣ですよ」といふ城壁を一つ作らないではすまぬやうに不自然になつて居る、私は此二十歲の娘達に心から同情を表しまた世の中の斯うした迷信について、何とか確證を得たいものと思ふて居た、處が東京朝日新聞の十一月十七日の地方色といふ所に左の記事を見出した。

◇大阪　丙午の女の迷信から悲劇が起るので、南河田郡では數へ年八十歲に達した婦人(丙午生れ)を調べると六十七人あり、個々について聞くと二度夫を迎へた人は僅か二名で現在夫婦とも幸福な人が大半を占めて居ると

何といふうれしい事實であらう、私は此記事を見て丙午の娘を持つお母さんに知らせてあげると同時に、廿歲前後の娘を息子の嫁に欲しいと願ふお母さんにも知らせてあげたいと思ふた、卽ち、二十歲(丙午)のお孃さんにいゝ方があつたら安心してお嫁さんになさつて下さい、といふ事である、迷信の強い關西として此調査は實に親切なものであつたと思ふ。

□

何でもやつて見て初めて其仕事の有難さは解る、子を持つて知る親の恩、何でも此一語に含められる、根本夫人――あのやさしい方が、主人が未成年者の喫烟、飲酒の禁止を法律にしあげてしまひます迄は衣類は着ないでも、どんな苦勞をしても、主人を代議士として、だします、金は要ります、ほんとに一通でない心配もします、でも主人でなければ此法律を作る爲の苦勞は出來ません――」と仰つしやつた事を思ひ出す、最も人受けの惡い、むしろ馬鹿にされる此問題を二十三年掛りて成功させて頂いた事を思ふと、私は心から根本先生御夫婦の德をたゝへずにはおられない、現に五十錢禁酒禁煙教育運動を初めて代議士の方々に寄附を願ふた處皆いゝ事だがと斷わる方が多數にある、ナゼお斷りになるか、それは言はすも明である、選擧區に酒屋が多い、また酒造家が力を以て居るといふのである、其人々に背をむけられては、凡て立場を失ふといふ事になるからである、往年根本先生が禁酒をまた其法律制定を目標として代議士の立候補となり、各處に演說されたのとは大なる相違がある、そこに初めて禁酒主義者は心を强うし、また同氏の爲に運動もしたわけであつた、今廿五歲案(未成年者飲酒禁止法の年齡延長)を議會に提出せんとするに際し、此大問題を依賴する代議士を推選するに苦しむのである、此問題は提出代議士にとつては何よりも損な問題である、馬鹿にされる時代はすぎたが、その反對に敵は强く大きく富で居る、實に困難な事である、根本先生の如く御依願するのでなく、是は我が使命也と信じて其爲に代議士となり共爲に其夫人も良人と共に苦勞さるゝ人が四百の現代議士の中にあるか、先年來松山代議士は最も損な公廢娼止の法律案を提出して夫人と共に人道の大なる十字架を其の双肩に荷ふて下さつた、死すとも此問題はやる――と同氏がさけばれた一句は今も耳にひゞいて居る、公娼廢止の提出者は此松山常次郎氏が我等に神より與へられた人として有して居る、今我等が神に求むる處は第二の根本正先生である、どうか第二の根本正先生を與へて頂きたいと祈り求むるのである、そして今謹で根本先生及夫人德子氏の二十有三年間の御苦勞を心から解し胸一杯の感謝を捧げるのである。

「トーチベアラー」を讀みて（八）

ガントレット恒子

□矯風會法律部の活動

禁酒令

一九一九年一月十六日は、實に世界の歴史に一エポクを作つた大勝利の日である事は、歴史に眼を注ぐ者の見逃すことの出來ない處である、米國民に取つて、否世界民族に取つて此日は合衆國の建國紀念と共に、最深刻なる紀念日であつて即ち、二十世紀に於ける、無酒合衆國建設紀念日である、此日に於て一億二千五百萬の合衆國々民は、人命と自由と、幸福とを侵害する、酒魔の手より自由を得べき保證を、法文の上に認め得たのである、其と同時に、合衆國即ち世界の凡ゆる人類より混成せる合衆國民は、此日を期して、文字上ばかりでなく、國民の實際の生活に於て此自由を尊重し、其效果を實現すべき任務をも負ふたのであつた。

我矯風會は、無酒國建設に於ては、一大要素となつて、之に力をいたした事は、會自らも自覺するのみならず、世界一般の認むる所であつて、一九一一年九月、已に其當時の會頭リ、アン・スチーブンス夫人は、此日を豫想して、次の様な宣言書を發表したのであつた。

玆に謹んで、萬國基督教婦人矯風會並に、米國基督教婦人矯風會は左の宣言をなす。

我等は我等の信ずる、禁酒の主義を各人に宣傳せんことを努む。

我等は、各人を通して、禁酒の主義を各國政府の律法の上に現はし、各國を通して、全世界の律法となさん事を期す

我等は此尊き目的を貫徹せん爲め、大能の神の祝福と、指導をあふぎ、其隣人を愛することを知る凡ての男女の努力を求む。

我等は、萬國矯風會は合衆國矯風會及び、各支部の發生地たる米國に向つて、向ふ拾ケ年以後に於ては、必ず禁酒を其法令の條文に載せんことを希望す。

我等は、右の目的を貫徹せんがため、合衆國に在る、凡ゆる、矯風、禁酒、宗教、社會事業團體の努力と活躍を、切望する者なり。

同年十二月の六十三議會に於て、アラバマ郡選出議員リッチモンド、ピー、ホブソン氏は、禁酒案を提出し、上院にても、テキサス郡選出議員モリス、シエパード氏は之に賛意を表した、矯風會は之に由つて熱を增した、而して、大々的大集會がワシントンに開催せられたのであつた、之がどんなに輿論を動かしたかは、衆人の認める處であつた。

死せるスチーブンス夫人のメセージ

一九一四年ワシントンに開かれた、調査委員會に於て委員の請求に由り、矯風會は禁酒法案の說明を與へることゝなつた、然るに會頭スチーブンス夫人……政事家的快腕の所有者であつた夫人は已に此會開催間際に、天の安息に入られてあつたので、會頭代理、アナ、ゴールドン女史は、マーガレット、ダイ、エリス夫人の紹介に由つて、委員の面前に出席した、其手には、死に面して尚主義の爲奮鬪せし、會頭の手に由つて、記るされた、意見書を携へて居つた、而して此偉人の最後のメセージとなつた、意見書は、同女史に由て朗讀せられた。

意見書

一九一一年九月十日に萬國基督教婦人矯風會並に米國基督教婦人矯風會を代表して發表せし宣言書は、豫期に反して好結果を齎しつゝある事は、實に感謝と信仰を以て我々の心を充溢させるのである、我々は必勝を期して戰ひつゝ

あり。

此國より酒類製造及販賣を撤廢することは、天父の喜であり、此地上に神國建設を促進することである。

幽明界を異にして語る

ゴールドン女史が此文を讀み終つた時、靜なる沈默が續いた、而して之を破つたのは、一上院議員の「本會は今謹んで米國矯風會々頭故スチーブンス夫人の死をいたみ、其亡き靈に敬意を表せんことを動議す」との發言であつた。

スチーブンス夫人の一文は實に彼の世からの彼女のメセージにほかならないのであつた、夫人が自らを忘れて最後まで愛し、之が爲に盡せし全世界の人類が、どうして、いつまでも、其靈に動されないで居られるであらう、誠意と、熱誠の前には終に凡てが跪くのである。

一九一四年十二月二十二日の會議は、熱心な討論に終始せられ、晝飯の爲にも夕飯の爲にも閉會せず會は進行した、議員は熱中して此問題を議し、一千名以上の傍聽者は其席を去らないで、片唾をのんで討論に聞き入つたのであつた、演壇の眞上には、矯風會の決議文と大書した、巻物が高く掲げられて、其巻物には賛成者の名が署名されてあつたが、其數は一萬二千の團體と、五百萬の男女であつた、尚此他に各地より直接議會に郵送せられた署名者の數は、一千萬以上と算せられ、有史以來斯の如き多數の署名を以て政府に提出せられた、請願書はなかつたと云はれたほどであつた。

禁酒令が各州の批准を經て七ケ年以後に實施せらるゝこととなるまで禁酒主義の爲に戰ふ勇士等の奮闘努力は筆紙にはとても盡し得ぬのであつた。

終に勝利は我等に歸して、合衆國は第十八回法律改正を斷行して、國内に立派に禁酒令は施かれた、一七七六年七月四日には自由の鐘が國民の血を熱し、胸をおどらせた、一九一九年一月十六日と、一九二〇年一月十六日には、再び、自由の鐘が鳴り渡つた、而して、自由を愛し、家庭を愛し、國を愛し、同胞を愛する者の大きな、心を鳴り動かした。

反對者の活動

禁酒令に反對して起つた、反禁酒令協會は「一九廿四年を

期して、我等は「乾盃壜」を破壊すべし」との標語を新に掲げて死力を盡して戰つた、禁酒令なる賜物は、實に尊い犠牲、努力、奮闘の結晶である。

國民の三分の一位は本より、禁酒令の結果としての一失を表して居る。けれども、局長ロイ、ヘインス氏は、左の様な事實を發表して其一得を示して居る。

禁酒令は、國内の飲酒より起る犯罪を半減した。

禁酒令は、國内の婦人の中に飲酒より起る犯罪を半減した。(或る州にては八割以上)

禁酒令は、淫猥行爲に關する犯罪を大減した。

禁酒令は、アルコール飲用より來る死亡率を半減した。

禁酒令は、全國的に死亡率を減した。

禁酒令は、未丁年者の犯罪を減した、之は、親達の悪い手本がなくなつた事を示すばかりでなく、彼等が親としての義務と責任を果す觀念が強くなつたからである。

禁酒令は、家庭の建設を盛ならしめた、一九二二年に新に作られた家庭の數は、一九一八年の其に比して、五倍の多きに上つて居る。

禁酒令は國民の宗教心を高めた、一九二二年に各教會々員の増加は、一百二十萬餘であつた。

一口に云へば、禁酒令の齎した好結果は一二に止らないのである、即ち、死亡率が低くなり、生命が長くなり、淫猥行爲が減じ、賣春の目的を以て營業する場所が衰へ、國民の財政が豐かになり、少年審判所の經費が輕くなつたのである。

安全な旅行

ニウヨー市で開かれた、機關士大會で、米國機關士協會の會長、ストン氏は、プロヒビッションの利益は旅行を安全にした事である、今日此禁酒國を旅する時、汽車旅行者は安心して旅行を續けることが出來る、なぜなれば、凡ての機關士は、明晰な頭腦の所有主であるからであると公言した。

勞働者と禁酒令

人は、勞働者には禁酒令は無理な法律である、彼等は一日の勞働を何に由つて慰するかと云ふ、けれども、シカゴ市の「勞働同盟」の會長、ジャン・フキッパトリック氏や、牛乳配

達人組合の設立者、スチーブ・サムナー氏は、厳正禁酒家であつて、其組合員の殆ど全部は禁酒の誓約者である、彼等は飲酒の害の恐しさを已に體驗して、之を逃れようと努めて居るのであるまいか。

今後に於ける我等の使命

多大の犠牲を拂ひ、數十年を費して、かち得た禁酒令も、空しき法文としてのみ存在するであるなれば、其は無益の長物である、矯風會は、此尊い法令が完全に實施せらるゝの日を信じて、其が爲に力を盡さねばならない、本より禁酒令が施かれたからとて、國内一人殘らずが、之を守る時代は決して來ない、けれども、國民が少くとも、此法令を重んじ男も女も、凡てを盡して、之の實施を助ける樣に努力せねば、酒魔に所を得させる時が到來するのであることを忘れてはならない。

婦人參政權獲得

「スーザン・ビー・アントニー法案」が一九一九年五月に國會を通過した、而して翌一九二〇年九月に批准された。七十年と云ふ長い間、戰ひに戰ひ、求めに求めた參政權は終に合衆國婦人の手に與へられた、スーザン・ビー・アントニー女史や、ルーシー・ストウン（ブラッウエル夫人）は此運動の開拓者であつた、我矯風會も最初より、婦人は人類福祉の爲には、當然參政の權利を有つべきであると主張して、大に之に盡したのであつた、婦人が參政權を獲た事は、やがて、禁酒令の勵行に力を添へることを意味するのではあるまいか。

我會が、參政權獲得運動に組織的に參加したのは、一八八一年であつて、ウヰラード女史を委員長とし、リパモーア、フォスター兩女史を委員とした、委員會が組織せられた、次で、一八八二年改めて、婦人參政權部を一つの部門としてレビット夫人を部長に舉ぐるに至つたのであつた、矯風會々員として此運動に參加された重な婦人達は、ウオラス夫人、アナ・ショウ女史、ジエンキンス夫人、ブレム女史、リビングストン夫人などであつた、而して、リビングストン夫人は參政權獲得の運動が終了したので、其部をキリスト教市民部

と改め、依然其部長として、より良き、米國を建設せん爲には、より良き市民を作らんとの意氣を示して、猛進しつゝあることは感謝である、新しき天と新しき地を、此地上に出現せんと希ふ、我々は、先づ新しき人を作らねばならない、婦人は世界の母である以上、此任務を兩肩にになふ覺悟がなくてはならない、其故にこそ、婦人は參政權を求め、之を獲得したのではないか、家庭の母として、社會の母として立つ女は、先づ、眞の女でなくてはならない、眞の女は、柔和、温順、純潔、至愛の德を備ふると同時に、威嚴、力、勇氣、理智を兼ね備へて、賢く、強く、やさしく、我々の後繼者達を指導するのである、世界人類の一人一人が賢き母、善良なる母を有ち得る時、我々の理想郷が實現せらるゝのである。

我婦人矯風會は此理想に近づかんとして努力する團體である、其任は重且つ大である、我々は自重自愛して、天父の助と聖靈の指導の許に終りまで、忠實に盡さんことを祈つて止まないのである。

× × ×

「トーチベアラー」の大要丈を讀者に紹介いたしました、茲に謹んで著者、イリサベス・ゴールドン女史に感謝の意を表し、且つ記者の拙文は能く著者の意を表すに足らなかつたことを著者にも、讀者にも、御詫びいたします。

クリスマスの憶出一つ

落　實

大正七年の年でしたか、七月四日の夜、愈々東京市民教會設立の決心をして、祈會をした年の暮、始めて矯風會のもとの赤坂の會館の中でクリスマスを執行しました、平生、父も母も外出勝ちの家で、珍らしく子供等を伴ふて、揃つて集會に出かけ、知り合ひの誰彼が皆お顔を合せましたので、餘程嬉しかつたものと見え、未だ六歳計りの次男がすつかりハメをはづして、ハシヤギ出して困つた事がありました、嬉しい會がすまぬ内から、小やみなく降り頻つて居た雪が、歸る頃にはとう〳〵大降りになつて、小供連れで歩く事も出來ず、やつと傭ひ出した車で親子四人か雪ダルマになつて歸つて來た事がありました、憶ひ出となれば困つた記憶でも亦一しほ樂しい氣のするものです。

平和（座右銘）

ガントレット恒子

十二月

一日

ひとにはみめぐみ、地にはやすき、かみにはみさかえ、あれとうたふ、あまつつかひらの、きよきこゑは、しづかにふけゆく、夜にひゞけり。

二日

大海は暗く荒れ狂つた、山の様な浪は烈風に加勢して、船を木の葉の如く弄んだ、船長の小い息子は眼をさまして、「お父さんは起きて居るの」と尋ねた、「然り」との水夫の答に落付いた聲で「其なら大丈夫だ」と云つて又すや〳〵と眠に落ちた。信仰と全き信頼のある處にのみ本當の平和があるのではあるまいか。

三日

平和への徑路……人生を愛と希望の中に送り、天與の所有物を以て足れりとなし、自らを守りて、慾を制し、驕傲と卑劣なる行爲を蛇蝎の如く惡むの外は何物をも惡まず、其隣人のものを貪ることをせず、只彼の善行と愛の業をまねんことを望み、自己に仇する者を忘れて其友を絶えず想ひ、常にイエスを心の内に宿し靈に於ても肉に於ても、主の榮を顯はさんことを努むること之が平和への徑路である。

四日

エルサレムのために、平安を祈れ、エルサレムを愛するものは榮ゆべし。

詩、一二二。六

五日

平和の君のまします處には、凡ての悲しみ、痛は去り、めしひは見、あしなへは歩み、罪は消え失せて、力と清きに新しく生きるのである。

セベレ

六日

人の手が皆清く、心がいさぎよくある日が來るなら其日こそ本當の平和の日である。

七日

浪風のないことが平和を意味するのではない、只其荒れ狂ふ中にも安心あり、心に靜けさを感じ得る處其處に平和がある。

八日

世の眼からは最も賤しいと見ゆる生活

596

の中に、最も高尚で、最もおだやかな、心持ちが味はゝれる。　カーライル

九日

人は平和は、無爲を指すと思ふことが多いけれども、奮闘努力の後でなければ平和は來ないのである。

十日

人の和らぎほど強いものはない、人の和は天をも動かし、地を樂園と化すことが出來る。

十一日

人は、愛と信仰と望を持つても、其外に必ず、恐怖の心を加へ持つのである、然し此最後の恐怖心がなくなつた時が來れば其は我々の待ちにまち望む、平安の世界であつて、其處に人は神と合致することが出來る。　ブラウニング

十二日

美しの宮殿……信仰の存る處に愛が宿り、愛の存るところに、平和が來る、平和のあるところには神がましまし、神の在します處に全き滿足がある、之が最も美しき宮殿である。

十三日

世の凡ゆる徳をつなぎ合せて居るセメントは、感恩の念である。

十四日

自分の最善を盡して義務と信ずることに當り、汝のなし得ざりし事を悔ゆるよりも寧ろ凡てを神にまかせよ、神の我々に望み給ふことは、成功ではなくして、只忠實ならんことである。

十五日

神よわれは、明日の爲、明日のことをとは祈りません、只けふの日を安けく守り給へと祈ります。

十六日

只の一日でも一時間でも、私には自分の歩むべき道が判り見えたことはない、然し、此日を與へて下さつた神は歩むべき道を教へて下さると云ふ、信仰によつて、平氣で信じて進むのである。　ピース・イン・アンバ

十七日

正義、平等、自由、信愛、尊敬、忠實謙遜、自制に信仰を加へた散樂は、人世の最良藥で、平和と云ふ、健康を來たす。　ピース・イン・アンバ

十八日

キリストは、天父の愛の實現である、人間としてのキリストは、其歩むべき凡ての徑路をたどり給ふたゆゑに、人は其聖足の跡を辿りさへすれば、神の活ける愛に達することが出來る。　オクセナム

十九日

やすしやつみの世にも、主のちによりてやすし、やすしや世のわざにも、主にしたがひてやすし。

二十日

心の滿足は自分の爲にはかつて、其をなし得た時ではなく、他人の爲に盡し得た時にのみ、かち得らるゝのである。

二十一日

やすしやかなしみにも、主のふところはやすし、やすしやわかれなるも、主のまもりにてやすし、やすしやみえぬゆくても、主しりませばやすし。

聖歌集

二十二日

活き甲斐のある生涯は、努力より生れ出で、平安の港にこぎ入るのである。

スタンレー

二十三日

私は自らの主人となつて、自らを制馭しなければならない、他を制馭し得る人は、自らを制し得る人のみである。

ゲーテ

二十四日

萬國の願ふところのもの來らん、又われ榮光をもてこの殿にみたさん、萬軍のエホバ、これを云ふ、銀もわがものなり金もわが物なりと萬軍のエホバ云ひ給ふ、此殿の後の榮光は、從前の榮光より大ならんと萬軍のエホバいひたまふ、此處に於てわれ平康を與へんと、萬軍のエホバ云ひ給ふ。

ハガイ書二。八、九

二十五日

主のあれませし日は、うれしき日よ、ふるくしてあたらしき、歌聲のうつくしさ、樂しさを、耳に聞き心に味ふ幸多き日よ、神には御さかえ、地には平和、人には惠あれかしと唱ふを聞け。

ロングフエロー

二十六日

嘉き音信を傳ふる者の脚山の上に見ゆ、彼は平安を宣ぶ。

ナホム書、一。十五

二十七日

よにましゝ、時の御かほをあふがず、死にしをいかしゝみこゑを聞かねど、あまくだりしをばうたがはずしれり。あまつみくににて父のみぎにたち、世を統ぶる君の御榮を見ねど、いのりつたへつ夜も日もをろがむ。

二十八日

或る人は日の經つ數で其齢をかぞへ、或る者は其頰を傳ひ流るゝ涙の數で其日

をかぞへる、私は主を愛し、感謝し、讃美する、歌聲の葉で自分の年をかぞへたいと願ふ。

ローザリー

二十九日

失敗に失敗を重ねた様でも、終りまで能く奮闘努力した一日は安逸と遊惰の百年よりも尊く美しい。

神父ライアン

三十日

年と云ふ國には、時と稱ぶ河が流れて居て、音も立てず、よどみもせず、流れ續けて、而もいつでも同じリズムで流れるけれども、終には永遠と云ふ大海に流れ落ちて仕舞ふ。

テーラー

三十一日

過去はなつかしい大きな包で、持つて歩く間は、持ちきれない樣に重かつたものゝ、下に置いて開けて見れば、重かつた、涙や苦痛の重石は、いつの間にか消え失せて、只美しい友の親切、おさなごの無邪氣な所、感謝の歌の樣な樂しい、尊い物ばかりが殘つて居る、而も其がとこしへの平和と合致する。

テーラー

ゐまひもなみだも、いまはさりて、たのしきかなしき、としはくれぬ。
くれゆきしとしの、ふかきめぐみ、みたみはよろこび、たゝへうたふ。
あたらしきとしを、むかふるいま、平和とさきはひ、あたへたまへ。

團體的禁酒の調査について

よき働きの前には充分準備せねばなりませぬ。戰はうといふのには、味方の陣營をとくと點檢してかゝる必要があります。

いま私らは、力を合せて廿五歳禁酒法通過に努めてゐます。そしてこれに續く第二段の戰法は地方禁酒制度（ローカル・オプション）の確立にあると思ひます。卽ち自治體（縣なり市町村なり）が、自己の意のまゝに自區域内に禁酒を布き得る權能を獲得する運動である。

それには、先づ我が國に今現に團體的に禁酒してゐる「禁酒村」「禁酒區」「禁酒耕地」「禁酒靑年團」「禁酒消防組」といふ風なものが、あるのかないのか、あるならいくつ位あつて、どんな働きをやつてゐるか、といふことを調べ上げ、これ〳〵の事蹟が擧つてゐるといふことを、世に明かにすることは是非やらればならぬことだと考へられます。

この調査は全國總がゝりでやらねと完全なものにならない、お役所ばかりで出來ることでありませぬ、どうかあなたの身近くの實例をお知らせ下さい、お願ひします。一地方で何ほどでもないと思つてゐられる平凡なことでも、それがどんなに他の地方を町を村を動かし、また益するか知れません。あなたの地方の誇をお見せ下さい。

調査事項

貴下の知つてゐられる團體的禁酒の實例をお知らせ下さい

（1、團體名　2、所在地　3、人數　4、主立つ人の名と所　5、動機　6、現況　7、反響　8、規約等）

御回答の注意

1、詳しければ何結構ですが、ザッとした略報でも喜びます。
2、規約書は二通（なるべく）添へて下さい。
3、事業や人の寫眞があれば何妙。
4、宛先は東京神田表猿樂町一〇
日本國民禁酒同盟調査部

時事

平和運動の將來

C・T・G・

本年一月十八日に、ワシントン府で開かれた、婦人團體の聯合平和問題協議會の席上で、議長キャット夫人は、こう云はれました。

「今日までに世界の婦人が着手した大運動は四つあつた。

一、奴隷賣買廢止、二、禁酒、三、婦人參政權獲得、四、平和促進。

此等の運動が婦人の手に出つて企圖せられ、着手せられた時、世人は無謀だと嘲つた、不可能な試みだと笑つた、本より、之等は決して容易な仕事ではなかつた事は當然の事である、百年、七十年、五十年と長い〳〵年月、艱難、苦勞の中に生み出されて、不屈不撓の努力で育て上げられたのではあるが、四運動の中で、第一、第二、第三は立派に成功したのである。

勿論此等の大事業が婦人の手に出つてのみ成し遂げられたのではないが、婦人も熱心に參加し苦鬪をなしたからこそ、出來上つたのである、之を見れば、其第四の平和運動も、終りまで怠らず、一致協力して、やつて續けるならば、必ず成功し、此地上から全く戰爭を除き去る日が到來すると私は確信して止まない。」

此キャット夫人の御言葉が、どんなに私共平和運動の遅々たる進みに、失望し易くなつて來る者に力となり勵となることでせう、平和の聲の高くなるにつれ、國と國とが爭ひ、人と人とが相反目して居る情態を目撃する時には、平和は決して私共の手に招來し得るものではない様に考へられます、けれども、一人でなく、二人でなく、世界の幾千萬、幾億萬の同胞が、一つ心で之を望み、主張し、運動して行くなら屹度、與へらるゝものと信じて進みませう、禁酒の事業も、廢娼運動も、凡そ世界平和を促進させる道ゆきに他ならないのですもの、只失望せず、平和の君の導き給ふ、聖手のみを凝視て生命のあらん限り進みませう。

婦人と勞働

生產に從事する婦人達の年々に多くなることは世界共通の現象です、而も、生產婦人は主として未婚の若い女性であつて、將來は、家庭を營み、子供を養育しなければならぬ人々です。近頃殊に勞働婦人保護、母性保護の問題が研究され、その必要を唱へられ、英米の如きは先んじてその實行に努めてゐます。

ところで我國の狀態はと申すに、我國は指先の細い勞働を必要とする生糸、紡績、織物の如き事業が盛んであるため、婦人勞働者の數は世界に冠たるものです。大正十三年末の社會局調査によれば

工場勞働者	九二九、五三六人
鑛山勞働者	七五、七四七人
其他の勞働者	三五七、三五三人
合　計	一、三六二、六三六人

（勞働時報五月號掲載）

といふ素晴らしい數を示し、勞働者總數の約三割二分を占めてゐます。而も、十五人以上を使用してゐる工場、卽ち工場法を適用されるところに働いてゐる者は八五七、九三〇人であつて男子工場勞働者よりも約廿二萬人多いのであります。年齡から見て、中年婦人が有ることは勿論乍ら、全體から見て、約半數は十五歲以上廿歲未滿の人々であり、工場法で制定されてゐる十二歲以上十五歲未滿の少女が大正十三年末に十一萬五千八百一人だつたのです。（社會局調査）

これ等の婦人達の働く時間は大抵十時間から十二時間、酷いのになると十一時間から十四時間も働かされるところがあるのです。

かうして劇しい勞働に從事する婦人達にとつては、物質上の餘裕は勿論無い、時間の餘裕もない、單に機械の如く働いて死人の如く眠る、それより無いのです。

人はパンのみにて生ろ者にあらずとは千古の名言であります。國家の將來を創造すべき若い女性、而も國家の生產事業に於て貢献する人々の人格の向上、精神的修養をすることの出來る餘裕をも與へなければならないと思ふのです。人間として、自由と權利と義務とを辨へる人間として平等に生きるために。（エス・エム・）

海外

フオスデイツク博士

数年前我國にも來朝されたことのあるフオスディック博士は宗教家として世界的に知られてゐる方ですが、先日、ストックホルムの大會の終つた後、セネバの聖ペテロ教會で、國際聯盟會議の代表者や傍聽者達の如き選ばれたる多くの人々の爲に說教をされました。それは、新聞に掲載されたり、小册子にされたりして、廣く配られましたが、氏は、その說教の中で、特に基督教を背景とし、基礎としての國際精神を非常に高調して、原始基督教に立ち歸つて、協力して、軍備に對する盲目的な競爭を廢止し、戰爭を罪惡となし、各國民が暴力や戰爭に頼ることのないやうにしなければならない、世界は平和でなければいけないといふことを懇々と述べられました。

其說教の終りの方で、博士は「原始キリスト教會は最初の平和團體であつた」と近頃の作家は言つてゐる。だが、キリスト教が次第に勢力を得て、初めの悲壮な狀態から救はれ、最早これに敵する者もなく、やがてはコンスタンチン大帝の家教となるに至つて終にキリスト教は原始キリスト教の純宗教的な平和な態度を忘却して、國家の行動に從ひ、戰爭の保證者となり、讃美者となり、その原因となるに至つたのである。我々はイエス・キリストと戰爭の一致を認めることは出來ない。キリストは決して戰爭を祝福しなかつたのである。戰爭は人類を破滅する最も恐るべき社會的罪惡である、それは非キリスト教的である。その戰爭の行はるゝ方法も、又其結果も、それは凡てキリストの考へなかつたことであり、無神論者が理論上如何なる冒瀆を以てしてもなし得なかつた神と人とに關する神の掟への反逆である。

キリスト教會は原始キリスト教會の古に還つて、現代の唯物主義、異教信と戰はなければならぬ、さうして、神の國を國境を超えて建設し、世界を平和へと導かなければならぬ。それは愛國心の否定でなくて却つて愛國の精神を輝かにするものである。

と言つて、國際聯盟の働きが如何に偉大なものであるか、同氏はその成行の爲に祈り、その成行を信じてゐるものであることを述べ、世界平和招來のために、道こそ異なれ、我々は一つの世界的組織をなして平和といふ一つの同じ目的のために盡すのである、キリストにあつては「劍をとる者は凡てその劍を以て殺すなり」と考へられたのである、

と言つて居られる。平和！ 世界の平和とは白日の夢であらうか、描かれたる理想鄕であらうか。夢に終るも、ユートーピアの空論に終るも、或は終らせないのも、皆人々の努力次第ではあるまいか。

ストツクホルムの大會

八月十九日にスウエーデンのストックホルムで、宗教史上に特筆さるべき大會が開かれて、卅七ヶ國から教會の代表者達が集つた。皇帝皇后、首相も宗教上の行列を造つて入場された。

會議の目的は、世界平和の基礎を置き、人人が互に信じ合ふやうにすることであつた。物質萬能の現代にありて、個人の人格を尊重して、靈の救ひに力を入れ、どこ迄も社會の種々な罪惡と戰はなければならぬ。從つて、教育の問題、家庭及び職業の問題の如く、婦人や子供に大きな關係ある問題について注意し、政治的には戰爭を防止することに努めなければならない等々のことが相談された。殊に議論が續出したのは禁酒の問題であつて、米國の牧師が米國が禁酒法を制定したのはそれが最善の方法であるからしたのであるといへば、スコットランドで十七年間も裁判官をしてゐたといふ人が、禁酒法を施した結果は、却つて多くの犯罪者を造るではないかといふ。すると英國の牧師が、我々は友邦が國家を擧げて勵行に努めつゝある禁酒法を打ち壞すやうなことがあつてはならぬ、我我は人類の幸福のために、友邦のこの大なる努力を援助しなければならぬと言つてゐる。

世界の平和をキリストのみ心に從つて實現することが出來るといふやうなことを言へば世の人々からは愚なる者よと言はるゝかも分らない。まさしく愚者でもあらう、然し、それは神を信ずる、神につけるところの愚者であると言つて萬場の人々に深い感銘を與へた人もあつた。

國々に於て宗教界に力ある人々の會議で平和が議せられ、禁酒の問題が眞劍に議せられたのであつた。（エス・エム・）

北陸部會訪問記

N. O. K.

一

四月、大會の時から秋には是非とお話のあつた、北陸部會の巡回に、九月末から、十月初めにかけて一週間の時を捧げることになりました、北陸は、ミス・テートを部會長として、大會後已に二つの新支部を創立せられ、目下七支部を擁する有力なる部會の一つです、此處かしこと訪問は屢々行はれましたが、部會としての訪問は此處が最初の試みです。

上野から夜行で、直江津廻りで新潟に向ひました、白々とあくる旭日を浴びて朝食を終つて居ると扉を排して入り來る人があります、何心なく振向けば、あだかもよしミス・テートが、金澤から已に見えられたのでした。喜んで共に座につき種々旅行の打合をしました。

二

新潟は小出女史の住はるゝ處、正會員は僅かに十二名ながら維持會員、賛助員等合すれば四十名を越え、目下、會の事業の基礎として大音樂會を開催せられた計の處でした。約四十日に渡り、音樂會の有ゆる準備を始め、八千有餘枚の切符を悉く殆んど自ら家々に持ち運んで依賴せられ、朝食すれば晝食は拔き、晝から出れば九時過ぎまでも市中を限なく歩いて切符の賣捌きにつとめられ、其結果、有ゆる障害も打ち越えて、終ひに大々的成功を擧げ、入場者は千六百人を越え、有ゆる費用を除去しても尚一百三十圓の利益を擧げられたと云ふ、大活動の最中に行き合せたのでした。かゝる折とて新潟で集會は一寸むづかしいと云ふ場合、當意卽妙に小出姉は近くの卷町で開かるゝ三十五ヶ村の代表者の出席する集會に自身招かれ居るを幸ひ、其處に案内するとて、私共二人を伴はれました。越後名物の美事な梨を抱へ、黃金なす稻の波打つ間を馳せて卷町に着、この地の郡長御夫婦に迎へられ、こ

こで約二百名許りの婦人方に一場のお話をして、夕刻三人連れで高田に向ひました。

三

高田は夏前、ガントレット岡部の兩姉が、來訪せられて新支部の設立が出來て居る處です、夜に入つて此處に着し、一行三人は三方に別れて一夜を過しました、小出姉は父君の御家に、テート姉は宣教師夫人方へ、私は牧師館へと。廣々とした八疊三間打ち拔きと云つたやうな大樣な座敷に、ゆるゆると疲れを休めさせて頂きました、翌日は日曜日、朝は教會の禮拜に出席、「祈の力」について承り午後と夜とは、一度は高等女學校講堂にて、一度は教會にて集會が催されました、晝と夜の間に催された支部會などは、中々盛大なものでした本部の岡部姉の御兩親、姉君揃つて集會に見えられ入會せられたのは嬉しい事でした。再び靜かな夜を樂しみ、翌朝小出女史と別れ、又もとの二人となつて朝早く富山へ向ひました。

四

富山市は數年前一度訪ねし處、氣も勇んで出かけました、未だ一二驛有ると思ふ處で、賑やかに入り來られし一行を仰げば早や富山支部長星姉が、出迎へらるゝのでした、喜んで一同席に着き、外を見れば、舊友の一人籠を下げて出迎へて居られます、美事な大鯛です、感謝して受けて別れを告げ間もなく富山市へ着きました。

一別以來のアームストロング女史、ツキデー女史に迎へられ、總曲輪の幼稚園に入りました。食後會員は一同集られました、卅餘名、何と云ふ嬉しい集會でしたろう、私は本部の今年の方針について話し、先づ五十錢袋の募集を勸誘しました、卽座に集ろもの十有餘個、夜に入つて支部主催の大集會が催されました、正確なる時間に始まり、九時に閉會、司會者の御苦心の程も察せられました、美妙な音樂が先づ會衆の心に水打ち、七百の大衆も終始謹聽せられたのは、非常な力でした、同夜十錢袋の集りしもの二百餘、感謝の內に一同歸路につきました。

五

翌朝は高岡へ遠征と云ふ話です、私共の二人は、星支部長を先頭の一行に伴はれ、高岡へ向ひました、この地の牧師御

夫婦に迎へられ、近くの實科女學校で一場の講話を致しました、遠征隊は此處でも、十錢袋の小兵士、八十有餘を集められたやうでした、金澤ゆきの列車を乘じて、私共は一足先きに暇を告げて出で星氏の一行は、獲物を集め、支部設立の牧師御夫婦に、くれ〴〵御依頼して此處を引き上げられました。

六

金澤はテート姉の本城です、大會後益々活力を見せて中村支部長、外役員一同力を盡されて居ます、會員の集會、北陸女學校の集會、一般集會とそれ〴〵形の如く行はれました、こゝでは、舊友の二人、女子學院の同級生島倉房子姉、米國にての友堂本ます子姉を其家に御訪ねする機會を得ました、詩も出來ず、歌も詠めずですが、嬉しい心は一ぱいでした、いづれも二十有餘年の友、物質に富まぬ私も、友に富む幸福をしみじみ味ひました。こゝでも高田でも舊友は實に嬉しいまちもうけでした。

一度家についてがつかりせられたらしいテート姉は、再び身を起して更に近遊の途に伴はれました。

七

次に私共を待ち受けられたのは福井でした、山田支部長のドッシリとした笑顔が、停車場に見えました、親しき方の幾人かゞ伴はれます、寶永上町の邸につき、晝の會食、午後の集會、夜の公會講演と、最も經濟的に時を用ひ、其間に山田家の御振舞ひにも寄せて頂きました、翌朝は女子師範を訪ひ四十年前、林歌子女史、山田壽雄女史が共々に學ばれ、同時に卒業せられし校舍を訪ひ、當時林氏は十四才、山田氏は十二才で卒業の縫取を拜見しました、照憲皇太后陛下の御歌、十二首の内、これは林さん、これは私ですと、指さして伺ひ古蹟を訪ふ心地で、實に感慨深く拜見しました。

八

最後の一ヶ處は敦賀です、澤田支部長外役員の方々の出迎を受け、晝食後直ちに縣立高等女學校にて講演、一度大黒屋旅館に引き上げ、夜の集會までに、テート女史と二人すき燒きにて晩餐を共にして互ひに送別し、夜の集會後私は直ちに夜行にて歸京、テート女史は、十二時にて金澤へ向はれました。

一週間の巡回中テート女史は、プログラム作製、旅行の手配、萬事萬端、心を盡して巡回主任の責を果されました、私は命のまゝに、行動するに過ぎませんでした、各部會の巡回が、部會長と共に行はるゝ事は、部會の將來の爲めこの上もない幸と思ひます、各地に於ける支部長役員、會員諸姉の厚き御援助を感謝すると共に、各地の御發展を祈つて筆を擱きます。

（緑黄綾なす庭を眺めつゝ大久保にて稿。）

震災地より山陰を巡廻して

林歌子

純潔に復興せよ豊岡町

朝六時に大阪を離れて十二時過に、震災地の但馬豊岡へ着きました、震災後半年をたちて停車場の通りは、大概建築が出來て、集會は學校の講堂に開かれて、豊岡町の母たちが三百人位に、年長の男女の生徒が澤山に集まりて、純潔に復興させ給へ母達と御話致しました。

教會の接待風呂

バプテスト教會の武田牧師の教會は、鮮人迄助けくれられて、衣類等は少しは出ましたそうですが、全滅の教會は、震災當時接待風呂を沸して、近隣の人々にふるまつて居られましたが、牧師館も集會所もバラックながら建ちまして、十字架は屋上に高く揭げられておりました。

信仰に復興せよ城崎溫泉場

五月二十三日、思ふも恐ろしき大震火災に殆んど全滅致しました、城崎も追々と復興に向ひ、先づ停車場の通りは、家が建ちて、バラックの中の人々も、冬を過すには差支なく、暖かき蒲團等も恵まれしとて、溫泉場も復舊に向ひ、震災の記念に出來ました（ミス・コーの御盡力にて停車場の前に）眞神を讃美する講義所の樣な、バラックの建築物は、基督教徒教開と名付けまして、町民に向つて、傳道を開かれて居りまして、今日も百人餘りの男女が來られて、後にのこつた青年男女は十五名、城崎の復興中心の人々、今や日曜學校も開かれて、神を讃むる讃美歌は、かなたこなたの小供の口より洩れて、城崎よ信仰に復興せよと祈りつゝ、バラックの中に一夜を明しました。



林歌子女史

山陰道鳥取に入る

昨日大阪から御一緒に參りました、氣品ある婦人に言葉を交へて、大阪每日新聞の見學團の集會に、鳥取を代表して臨席され、御歸りといふ事にて、其御婦人は鳥取の山村市長の御夫人にて、迎へられます家は、內務部長際野夫人方にて、午後は婦人方に、夜は一般の男女の聽衆、小學校の講堂に溢れました、支部長伊塲かう子姉（伊塲辯護士夫人）にて御良人伊塲增藏氏は、夫人を助けて有力なる後援者、支部長の獨舞臺にならぬ樣に、會員の訓練が追々と出來、支部の健全なる發展を祈り、適任なる支部長の與へられあるを感謝致しました。

倉吉支部

山に圍まれし小さき町、組合教會高橋牧師の客となり、濱邊支部長の家に集まりて、會員のみの集會、夜は小學校講堂にて、山桝代議士と共に語りました、主催は基督教婦人矯

風會と、愛國婦人會と合同にて、聽衆の三分の二以上は婦人にて、五六百人以上にて、翌八日は、日曜學校の生徒に話しつゝ、時間に迫られて、停車場へ行けば、アドヴアンス教會の牧師御夫婦と、日曜學校の生徒大勢に送られて、矢張私は日曜には子供に御縁深いなあと、博愛社の子供の事を遙に思出しました。

米子支部

米子支部は、大江さやか姉を支部長として熱心なるケンブリッヂ夫人が、其家に支部の看板を掲げて、働手の揃ひある事を第一に感じました。九日の午後には、教會にて集合、歸途を復び擁して、十一日の晩、商業會議所にて、男女三百人以上の集會、屋外に立てる人々も多かつた樣です。

島根縣松江市

松江は今回の目的地、四方文吉氏の御紹介にて、白潟小學校の開校五十年、教育會の二十年、學校の増築落成といふ、目出度時の婦人會の講師に招かれ、松江は島根縣廳の所在地、宍道湖に臨み、天惠に富める、靜閑なる土地、教會は聖公會一つ、永野武二郎氏を牧師として、有名なるバックストン牧師の年久しく居を占めて傳道されし處、未だに支部の設けなし、教會にて御話のあとに、會員の事を話し一々伺へば、中に六名の方は、他の支部にて會員であられし方ときゝ、一日會員であつた方が、他へ移られし時、殊に支部のなき所に行かれし時にも何とか、緣を繋ぎたきものと深く感じ、昔し三十四年の前に、私も東京を去りて、博愛社へ獻身して行かんと致しましたる時に「もう會員は御免ください、集會にも出られませんから」と申しまして、矢島前會頭に「主義のかわらぬ以上は、矯風會をやめるのではありません、これから、會のない所へ行つて、パン種となつて、會を作るのです」といはれて、播州を經て大阪へ出で、遂にパン種となりました事を思出しました。

翌日縣の赤十字社に於て、別府知事夫人、高橋市長夫人を始め五十名程の御集りにて、三十五名の有力なる方々は、記名して賛成の意思を發表されて、島根縣下に白きリボンの結ばるゝ日も近しと。

今や實に時期は滿ちて、大阪朝日新聞社主催の全關西聯合婦人會大會の如き、議題は一致して、婦人問題、禁酒問題に、婦人參政問題に集中する樣な姿となりまして、眞に、一國婦人の目醒の曉が今や光をさしかけました

日本婦人矯風會は、來年大正十五年には、滿四十年を迎へんとして、前會頭は天に召され大飛躍の時期は今なり、今なり、我等なりと深く感じます。

日程滿七日終りに出雲大社へ參りて

十二日朝無事に大阪へ歸りました

各地にて受けし厚情を感謝す

榮養豐富の惣菜料理

松宮しん子

一大根の風呂吹

材料五人

大根一本、黒胡麻一合、赤味噌三十匁、サトウ五勺、水一合、味の素小匙1/4 醤油二勺

大根の皮をむき五六分位の厚みの輪切にし角をとりて丸みをつけ被ぶる程の水を加へ落蓋をして充分軟かくなるまで茹でる、胡麻はよくいり乾いたすり鉢に入れ油のでるまで丁寧にすりつぶし赤味噌をうらごしにしたものをすり混ぜサトウを加へ大根のゆで汁一合と味の素及醤油二勺を加へてよくよくすり鍋に入れて中火にかけて煉り上げ大根をあたゝめて椀にもり胡麻味噌を熱くしてかけ蓋をして供す。

一牛肉巻焼きトビ色ソース

材料五人

牛肉モヽ肉百匁、大根葉一(大根一本分の葉)、バタ大匙三、メリケン粉大匙三、鹽胡椒

牛肉モヽ肉を丸のまゝ求めて薄く五切れにし、大根の葉をクキと共に水にて洗ひ熱湯に鹽少々入れ極くザッとゆで、水にとりしぼりてコマ〳〵にきり尚水氣をしぼりフライ鍋にバタ大匙一をとかし大根葉のきざんだものを入れていため鹽胡椒にて味をつけ牛肉をひろげて右の大根葉のいためたものを心にしてまきこみ兩端をゆびでおしこみてなかの大根葉のはみださぬようにし尙糸にてくゝりフライ鍋にバタをとかし巻いた牛肉にメリケン粉をまぶしてバタにていため、ほかの鍋にうつし水をかぶる程入れて二十分間煮て皿にもりトビ色ソースをかけパスリーをあしろふ、トビ色ソースはフライ鍋にバタ大匙一をとかしメリケン粉大匙二を加へてキツネ色によく〳〵いため牛肉のゆで汁一合にてのばし醤油又は鹽にて味をつけ胡椒少々を入れ味の素

を加へる。

一 牡蠣豆腐

材料五人

豆腐一丁牡蠣二合、ほうれん草一ワ、橙子一個、醤油、味の素

豆腐は奴にきり鍋に煮出汁こんぶを敷き豆腐を入れ水をかぶる程加へて火にかけ、豆腐がうき上るを程度に牡蠣を入れ、ほうれん草は生のまゝ洗つて五分切りにしたものを加へる、凡て材料は一度に入れず食べる丈次から次へと入れ煮ながら皿に掬ひ上げ醤油は橙子酢味の素を合せたものをかけてたべる橙子酢醤油味の素は壺に入れ煮鍋の中に入れてあらかじめ温めて置く。

一 蒟蒻ごま味噌和へ

材料五人

蒟蒻二本、黒ごま一合、味噌二十匁、醤油二勺サトヲ大匙三、ゴマ油少々、味の素小匙1/4

蒟蒻はつまみ切りにして熱湯にてゆで笊にあけ、かわいたふきんにはさみてパタ〱と汁氣をきり鍋にゴマ油少々たらしこんにやくを入れていためて置く、黒ごまはよくいり油のでるまでですりばちに入れてすりサトヲ及こし味噌醤油を入れて尚よくすり味の素を加へこんにやくをあへる。

一 卯の花汁

材料五人

卯の花二合、鹽鮭二切、人蔘半本、日本葱二本、味噌三十匁、味の素

卯の花はすりばちに入れてよくすり、普通の味噌汁を仕立て味の素を入れ、鹽鮭の甘口のものを一切を五個位にきり、人蔘はせんに切りて入れて煮上げ最後に日本葱のきざみたるものを入れる、葱はなま煮え位がよろしい。

愛しき聖座

生品新太郎

赤ん坊の
ふくよかな兩肢にまもられて
眞如の妙相を垂れてゐるものよ
そと手をのべて觸れてみれば
おゝ
たとしへなき悦びの湧くその感觸！

私は　つと手をひいて
偸むやうに自分の身の廻りを顧みた

610

私は　まだいつぱし若いつもりでゐるのに
もう私の轉生が
永遠化された「私」が
ほつちりと顔を出してゐる哀しさよ

けれどもそと觸れる感觸に
私の心は靜かに燃えあがり
全身の血はあやしく陶醉し流る
おゝ
永遠化された「私」の愛しき聖座よ
私はそれをおろがむ

あむぷろむぷちゆ

——Impromptu——

宮添緱

小乗的

或る田舍の街で、說教者はその說教の最中であつた。

……で、聖壇は神聖な所であつて決して諸君の耳を怡しませるためにあるのではありません。かの俳優たちが舞臺の上に於て、勸善懲惡を演じて諸君に媚びへつらひ、その喝采をはくする一方、彼等の樂屋生活に於ては實にひんしゆくすべき生活をしてゐるのと大に選を異にするものであります。

良藥は口に苦しの譬もあります。

聖壇に於ける說教は、たとへ面白くなく、諸君の耳を怡しませる所なくとも、諸君の魂の糧となり、慰安となるのであります。現在はそうでなくとも、他日私の申すことが事實であることが明白となることゝ思ひます。然るに、芝居に於いては一時、諸君の耳を怡しませても、何の益する所もなく、却つて諸君の魂をそこのふのでさへあります。

何故と申しますに、一體に芝居なぞと申すものは單に遊びにすぎません、が面白いに違ひありません。丁度稚い子供に取つて火遊が面白いやうにです。然し、聖壇に於て說かれるものは遊びではありません、で、面白くないのは當然のことなのです。

そもそも舞臺なんぞと、聖壇とを比較するのも間違つてゐます。……

（その街では、旅まはりの新派劇が小屋にかゝつてゐて人氣を呼んでゐた。）

演劇に對して、騎士のやうな小壯氣銳の熱情をもつてゐた自分は、勿論、この說教者に依つて、叱責非難されてゐる、あはれなミユーズの女神のために、すくなからぬ義憤を感じてゐたのは事實だつた。

同時に又、雲にはゞまれた月の出をまつ柿本人麿のやうな

退屈さと、もどかしさとを感じてゐたのも事實だつた。

自分の確信する所に依れば、その時自分は、この說敎者に露はな輕蔑の色をさへ浮べてゐたらしい。が、それにも拘らず、爾來、自分の心の中に、その說敎者に對する好意が、次第に芽生えて來たのは否まれない事實だつた。

つまり、自分は、この說敎者のミューズの冒瀆の中に發見した彼の壯んなパンのための鬪志に小乘佛敎的の同情を感じたのだつたから。

巡禮と役者

洞窟のやうな灰色の圓天井の部屋。

中央の廣い床の棟木に吊されたランプの赤黄ろい、弱い光りが部屋を一層憂欝に寂しく見せる。

骨牌をする組、將棋をさす組。

幾つかの會話が、靜かにハアモニィして交錯する。

神經のちかんした蒼白い病的な顏。

腐敗した魚の眼のやうな、にごつた眼が力なく動く。

あごひげに埋つた和かな老いた顏。

あやすやうな微笑が始終あふれるやうな眼。

零落した役者の果と、原始キリスト敎の信者、老巡禮ルカとの會話が始まる。

役者——おれのオルガニズムにまだアルコホルの毒が廻らなかつた時分には、おれは記憶が良いので有名なものだつた……ほんとだぜ、ぢいさん。

ところが今は……もうすつかり駄目だ、おれがこの歌を唄ふと、きつと大成功でね……いつでも割れるやうな喝采さ。と言つたところで、喝采といふものがどんなものだか、おめえには分かるまい……まあ、なんだね、ウォッカ見たいなものだね……かういふ風に歩いて出るんだ。(姿勢をとる)それから始めるんだ……それから(急に默る)もうちつとも覺えてゐねえ。ひと言も覺えてゐねえ。あの歌は、おれの一番好きな歌だつたんだがなあ……ぢいさん、どうだ、呆れたか。(空を摑む)

巡禮——一番好きなものを忘れちまツちや——困るなあ。人の魂は、その人の好きなものにあるのだから。

役者——おれはおれの魂まで飮んぢまつたんだ……おれはもう駄目な人間た……なぜ駄目だと云ふと、それ、自信がないからだ……おれはもうおしまひだ。

巡禮――なぜ。直したらいゝじやないか。わしの聞いた所に依ると今日では酒飲みの療治が出來ると云ふ話だ。しかも、たゞで直すと云ふことじやないか……大酒飲みの病院が立つてゐて……そこで、たゞ直してくれるといふぜ……酒飲みだつて人間だと云ふことを段々世間が認めて來たんだな。だから、誰かゞ行つて、直してくれと言へば向ふは大層喜ぶんだ。すぐ、行つて見ちやどうだい。

役者――(思案して)どこへさ。どこにそんなことがあるんだ。

巡禮――何とか云ふ町なんだが……何と言ッたつけな。妙な名だつたよ。……なあに、今すぐ分かる……まあ、兎に角、支度だけしとかなくちやいけない。先づ、酒を控へるんだ。勇氣を出して、辛いのをこらへるんだ。そこで病氣が直る。直つたら、新しい生活を始めるんだ。いゝじやないか。え。新しい生活だぜ、さあ決心をした……一、二、三。

役者――(微笑して)新しい生活……初めつから……いゝなあ……そんなことが出來るかしら。新しい生活(笑ふ)やつて見やうかな。ようし、やつて見やう。きつとやつて見る。

(小山內薰氏譯ゴーリキー「夜の宿」より)

招かれざる客のなげき

ねえ、君、僕はそこの家に久しぶりで行つたのだぜ。それだのに上りもせずに歸つて來たのさ。何故だつて？　まあ譯を云はなくちや解からない。

その家の夫人は、そこへ嫁ぐ前から僕の親しい友達だつたのさ。明るい、快活な、文學好きな、さうだな、花でいつたら陽まはりのやうな感じのする女だつたよ。幾分インノセントな所もあつたので僕達の仲間でなか〳〵人氣があつたよ。いち時は、雲雀さんだなんていはれてたつけ、何？　和製のノラだつて、第三幕目を氣をつけろつて？　馬鹿、下らないことを云ふな。

忘れてた、旦那さんは大學で哲學を專攻してゐる篤學な學者なんだ。

所が、僕は、メフィストが哲學者を罵倒して以來、哲學者に魅力を感じないんだ。

で、その日もなるべく旦那さんに會ひ度くないなと思ひながら、たてつけの惡い玄關の格子戸に手をかけてゐた。

僕は玄關に入るや否や、天使のやうな聲で案內を請ふた。

やさしい聲の代りに、太いバスで應ぜられはしないかと恐れ

つゝ。
が、僕の杞憂に拘らず僕の案内に應じたのは夫人のやさしい聲だつた。
ほつと安堵の胸をなで下す僕の目の前に現れて來たのは云ふまでもなく、夫人のいつもながらの明い姿だつた。ひと時薄暗い玄關が明るくなつたやうに感じた位だつた。
お互の久濶を敍すなつかしい言葉や、共通の友人達の噂さむしばらく、饒舌に取交はされた、久しぶりで瀟洒なウイットや、皮肉が投げ交はされた。ねえ、君、よくあるね、親しい友人が久しぶりで會つた解放された氣持の良い情景を想像してくれたまへ。
僕は、すい／＼と飛んで來るウイットの前で、氣持よく輪舞してゐた譯さ。
所が、君、この高調された、場面へ投げられた惡魔の息吹は僕の心をあはれな風船球のやうに凋ませてしまつたのだ。
自分の言葉に醉つてゐた彼女はふと立話をしてゐることに氣が附いたらしく。
「まあ、失禮、つい話に夢中になつて仕舞つたものですからさあ、お上んなすつて……ねえ、宅の商賣があんなんでせう……だもんですから、毎日、／＼、むづかしい、堅いこと許り聞かされてゐるんでせう。で、たまには、軟い、面白いお芝居やの話でも承り度いわ」

そう言ふと彼女は嬌笑一番して、僕を招じ入れやうとしたのだ。が、僕はすでに、惡魔の息吹を感じて、自分の演じてゐる、又、これから演ずるであらう役割に氣がついたのさ。
道化服を着て珍妙な役割をしてゐる自分に氣がついたのだ殿堂の奧に祕められた笛は今や街の中で行商する飴屋の笛のやうに道化めいた調子で吹かれやうとしてゐるのだ。僕の心の奧に眠つてゐた藝術至上意識がむら／＼と目覺めて來た。
馬鹿にするな、おたいこ持ちじやないぞつてね。なに、それが第三幕目の幕切れの捨臺詞かいつて。
まぜつかへしちやいけない。
そこで、僕はとつてつけたやうに儀禮を正して固辭すると恭しく一揖して呆氣に取られてゐる夫人を後にして……たてつけの惡い格子戸も心なしかする／＼と開いて、この招かれざる客の悲壯な氣持に一層の效果を與へた……
恐らく僕の氣持は年上の惡戯兒にいぢめつけられた少年のやうなやるせないみじめなものだつたらう。
こんな譯で、僕はとう／＼その家に上がらずに歸つて來た譯さ。
何、フイニタ、ラ、コメチヤ！　だつて？
何て、意味だい？
あゝそうか、「喜劇は終つた！」と云ふのか、そうか。
Finita la comedia か。
（二五・一一）

本部日誌抄

十月

▽二十二日(木)　久布白幹事横濱支部訪問。捜眞女學校にて講演せらる、來谷、竹中姉

▽二十三日(金)　午後二時より風俗部集會、山東、細田、井深、塚本、川崎、伊藤夫妻、村上の諸氏外數名出席、新聞記者數名來訪

▽二十四日(土)　東京部會有志及本部職員一同六組にわかれて各巷に立ちて純潔の宣傳をなし又募金をなす午後四時頃より一同本郷の帝大佛教青年會館に集り夕食をとり、いよ〳〵大講演會に移る賀川氏を初め七人の辯士會衆一同熱す、參會者約七百餘立錐の餘地なく實に盛會なりき

▽二十六日(月)　久布白幹事早朝信州へ向け巡回の旅に出らる、日本青年館の開館式に、岡部沖姉列席

▽二十七日(火)　早朝守屋姉大阪より歸京せらる午後青年館へ。理事會の案内狀出す

▽二十八日(水)　東ヶ崎氏夫妻いよ〳〵御歸米の途につかる

▽三十日(金)　久布白幹事歸京午後社會事業協會の岡氏へ面會に行かる、ガントレット姉横濱支部訪問

十一月

▽二日(月)　午前九時より矢島家にて理事會開催

▽六日(金)　麹町支部例會、岡部出席、久布白姉全國女學校長會議に約五分の時を得て意見を述べらる

▽十一日(水)　午前十時より青山穏田の淺田氏のお宅にて理事會開催、婦人新報出來

▽十三日(金)　ガントレット姉前橋へ向け出發

▽十四日(土)　婦人ホームにクリスマスバザーにて賑ふ、本部にても賣店を出す

▽十六日(月)　久布白幹事午前產業青年會館へ午後基督教聯盟の委員會

▽十九日(木)　基督教者社會事業懇談會へ岡部出席

▽二十日(金)　本部階上にて臨時理事會開催米國より來朝せるミセスパークをむかへ理事會にて歡迎す、奧むめお氏來訪

久布白及沖兩姉妓樓に放火せる娼妓關根せん子を洲崎署及地方裁判所に訪ひ對談せらる

ガントレット氏甲府へ向け出發

▽廿三日(月)　ガントレット氏上州部會へ出席

▽廿四日(火)　久布白姉横濱支部訪問、川崎理事來訪

▽廿五日(水)　久布白姉在宅日、御病氣の由、十錢袋女子學院の同窓生に約八百通發送

▽廿六日(木)　アナ・ルイズ・ストロング女史の歡迎茶話會午後三時より青年會にて開催宮川姉出席夜報知講堂にて講演會開催

本部だより

▽第卅六回理事會

十一月二日(月)

出席者　ガントレット恒子、渡瀨かめ子、小泉たれ子、井深花子、淺田みか子、久布白落實、吉田とみ子、ウエンライト、川崎正子、小崎千代子、

報　告

東ヶ崎氏よりの寄附、外人部會よりホームへの寄附、大阪支部誕生日會員よりの寄附、盛謝して受け入る

相談事項

1 討議會運動に就て

2 パリの廢娼決議とセネバの廢娼に對して祝狀を送る、滿場一致可決

3 廢娼及廢酒に就ての對議會運動につき代議士招待會を開く事可決委員として本部役員の外川崎、渡瀨、ボールス

祈をもつて開會す

▽第卅七回理事會　午前十時より

出席者　小崎千代子、ウエンライト、ガントレット、小泉たれ子、淺田みか子、久布白落實、川崎正子、渡瀨かめ子

會頭小崎夫人の祈をもつて始む

1 本部會館建築の件

2 千本木氏の歸朝に就て

3 皇孫殿下御誕生の御祝ひに就て賀狀を捧呈する事可決

▽第卅八回理事會(臨時)午前十時

出席者　小崎千代子、ガントレット恒子、渡瀨かめ子、吉川せき、吉田とみ子、淺田みか子、久布白落實、川崎正子、守屋東、

小崎夫人祈をもつて初む

相談事項

1 本部會館建築に就て更に熟議

建築の交渉委員にガントレット夫人、守屋東氏を加ふる事可決

2 土地買收についての事も同委員に一任可決

活動

廣島支部

拜啓陳者今回當支部が學生のため寄宿舍を設けましたに對して、御祝詞を御恵送下さいました上に此の事業のため御祈り下さいました由實に有り難く厚く御禮申上ます。實は當市には專門學校や高等學校など設けられます樣になつて多くの學生が市内に入り込む事になりました、此等の學生は多くは温い家庭を離れて淋しい下宿生活をして居るものですから自然樂をカフエーや活動寫眞などに求むる樣になり、遂には誘惑にまけて一身を誤まるやうなものも大分出來る樣子で、どうか父母に代つて清い温い家庭的な寄宿舍を設けて健全なる智情意を持つた方々を造りたいとは當支部會員の望でありまして、これが爲め昨年の秋は活動寫眞會を開き、また今年の六月にはバザーや演藝會など催ほしまして千圓近くの金を得ました。

私共最初の考はどうかして家を造つて後に始めたいと思つて居りましたが、家を得ることは容易の事ではありません、いつそれが實現せられるか丸で雲をつかむ樣にも思はれて會員中には小さくとも早く事業を開始する事を是とせらるゝ方もありました。丁度私共が如何にしたらばよいであらうかと思ひ惑ふて居りました際、偶然にも否私共は神のお攝理であると信じて喜びいよいよ事業を始めようと決めるに至らしめました事は、最も適當な家を與へられまたこれを經營して行くに最も大切な人を得た事であります。長い間芦屋の聖使女學院に教師としてまた舍監として令名ありし岸本コウ子女史が私共のこの企に同情と興味を持たれ、其身心を此貴い事業のためお献げ下さるお決心を遊ばしました御報に接しまして、私共は大に力と勇氣を得まして、いよいよ小さいながらも寄宿舍を開く事になりました。

家は十名位は收容する事が出來ますがまだ僅かに其半位であります。これは廣く寄宿人を募集すればすぐに充たされるだらうと思ひますがクリスチヤンか或は準クリスチヤンのみを收容して初めによい氣風を作りたいと望んで居りますので、まだ十分の人を得ません。そして此寄宿舍を清交園と命名せられました寄宿人より實費をいたゞく事にして居りますが、これを經營して行くには其他に大分費用もかゝりますので、只今賛助員を募集中であります、これが中途に倒れる事なくいつ迄も長く繼續してだんだん大きなものに發展する樣にと切に祈つて居ります、どうか本部の皆樣もこれが爲めにお祈り下さいますやう只管お願申上ます、先は御禮旁御報知申上ます。

十月二十九日　菱沼小夏

大久保支部

満一年を迎へて

同志十三人により、婦人ホーム矢嶋寮に産聲をあげし當支部も、月日と共に追々に增はれて、一年を迎へんとする此頃、四十名に餘る會員を得て、心より感謝して居ります。なすべき事の數多ありながら、皆樣に御紹介申上る程の何物をも持ちません。

然し、每月第一土曜日に、例會を開く事を怠りません。

支部の資金を作るために、六月中一週間、會員本田、吉村姉を講師として、帽子講習會を開きし事。

十一月婦人ホームバザーの後援をなし食堂を開きし事。

左に改選の役員を御紹介致します。

支部長　野深治子
書記　安原みよ
會計　野間元靜香
風俗部長　植山つる

松代支部

十一月五日本部より守屋女史を御願ひして特別運動を試みました先づ午後一時より小學校に於て六年以上の生徒にお話をして頂きました。當時校長は不在でしたが翌日校長が見えて厚く禮を申て行かれました。午後三時半より教會で小供の集り(日曜學校生徒を主として)を開き七時半から一般町民の爲に講演をなして頂きました。會場は矢張教會です。聽衆は二百數十名田舍の教會としては稀有の大集會で殊に會衆に大なる感動を與へ矯風會の主義精神をも知らしむる事が出來て感謝して居ります。

編輯室から

◇冬枯れの野の末に、こんもりとした森に抱かれてゐる農家の毎日の營みも、何となくおしつまつた感じを抱かせる。あゝ、もう冬だな、十二月だなと思ふ刹那に起る感想は誰のも大抵似たりよつたりであらう。冬來れば春遠からじと言ふ。輝かしい春を迎へる前に、おごそかな默思の冬が與へられてゐることは人間にとつての幸であらう。クリスマスもその意味でおめでたい。

◇本號には生品新太郎氏の詩を御紹介する。氏は今更あらためて御紹介するまでもなく皆樣御存じの方であらう。『愛しき聖座』を通して氏の清らかな詩境を窺ふことが出來やう。新年號では續いて同氏の思想に私共はふれることが出來るのである。讀者諸氏よ、どうか待つてゐて下さい。

◇曾て一度八月號で御存じの宮崎氏の『あむぷろむぷちゆ』は清新の氣に充ちたものである。若き作家として、青年日本と惱みと涙と喜びを分つ人であらう。

◇新年號から一層努力して清新の氣溢るゝものにしたい。編輯者を勵して下さるのは皆樣です。どうぞよろしく。

◇誌代の滯つてゐる方は、お手數でもどうぞ送つて下さい、振替が何より御便利且つ安全です。これは會計から折入つてのお願みです。

◇ガントレット夫人の座右銘は新年號から引きつゞき執筆して下さることになつた。さうして、一入興味深いものとなるらしい。

（エス・エム・）

消息

▽松宮しん子氏　十一月號から食物に關して御執筆下さる同氏は、今度東京府下荏原郡馬込村北久保一號六三一（省線大森驛下車）に轉居された。

▽高木鉀子氏　去七月服裝研究かたがた渡米され、十月卅日無事歸朝された。ワシントンでは矯風會の例會で日本の話をなし、紐育では千本木氏や松宮氏の令孃にも會つて來られた由。

▽パーク氏　米國で、婦人參政運動、産兒制限、などの運動に於て廣く知らるるパーク女史は過般來朝されたが、十一月廿三日の理事會には來訪して一場の話をされ、種々の話が出て、大變に喜んで歸られた。

▽ストロング氏　大戰後、米國のフレンド派から派遣されて露西亞のロシヤで働き、現在では五十萬兒童の指導に當つてゐる方である。シベリヤから支那を經て歸米の途、來朝された。十一月廿七日神田の東京基督教青年會館で諸團體聯合の歡迎茶話會が開かれ、同夜報知講堂で演說會が開かれた。

婦人新報定價

一部二十錢郵稅五厘
半年分一圓二十錢郵稅共
一年分二圓四十錢
（但し海外は郵稅別）

大正十四年十一月廿九日印刷
大正十四年十二月一日發行
發行兼印刷人　小崎千代
編輯人　久布白落實
發行所　東京市外大久保百人町三百六十番地　婦人新報社
印刷所　東京市小石川區久堅町百八　株式會社博文館印刷所

社告

◇廣告御希望の方へは詳細お知らせ致します。
◇送金は凡て振替が便利でございます。
◇誌代は前金、切手代用は一割増。

振替口座東京三二四六九
電話四谷六五六〇番
編輯及事務所婦人矯風會本部

復刻版 婦人新報 第6回配本〔第31～36巻〕

1986年4月25日 発行

定価 60、000円

発行者 船橋 治

発行所 不二出版(株)
東京都文京区本郷5-28-3
〒113 ☎03(812)4433

印刷所 ワールド印刷

製本所 青木製本

乱丁・落丁はお取り替えいたします。